瓦谷山たより

vol.3

発行日　2006年8月吉日
発行人　真光寺
住職　岡本和幸
印刷　現代社
編集　(株)地球工作所

お問い合わせ（真光寺）
電話　0438-75-7414

ご挨拶

お盆を迎えて

早いものでお盆の季節を迎えました。真光寺の樹木葬墓地と道路の造成は終わり、伽藍の建設もまもなく始まる予定です。すべて完成するのは平成二十年の春ごろを予定しています。樹木葬墓地は現在経営許可申請を行っており、秋のお彼岸ごろから永代使用をご希望の方に使っていただけると考えています。長期間にわたりご不便をおかけしますが、何卒よろしくお願い致します。

真光寺の田んぼは約五反の田植えを終えて、幾分成長が遅いものの順調に育っています。稲作りの経験がありませんので、地元の方たちのアドバイスをたよりに暗中模索しています。この田んぼを使い今年から上総自然学校という名称で年二回小学生を集め、子供たちに稲作や畑の作業を体験してもらう活動を始めています。また里山再生活動と称し毎月一回、田んぼや畑の体験をしてもらっています。さらには（株）ティンバーランド一行を受け入れ、企業が地球環境を考える活動の一環として、田んぼ作業を体験していただきました。総勢百二十名の受け入れで大変でしたが、みなさん真剣に作業に取り組んでいただきました。その他に東洋大学ライフデザイン学科の生徒二十二名が真光寺で合宿し、田の草取りに精た。毎週のように都会から大勢の人たちが田んぼの体験に訪れています。この場所はそれ程に人々を引き付ける魅力のある場所です。昔ながらの自然が残っていることはすばらしい財産です。

地元の皆様には毎度お騒がせし誠に申し訳ありません。農作業へのご協力や、参加者への差し入れ、暖かい言葉をたくさん頂戴していることを、心より感謝しております。田んぼの体験をした方々は食べ物や環境について考え、またお米作りがいかに大変か実感して帰られます。子供たちが健やかに生き物と戯れ、元気に遊んでいる姿を見るのはいいものです。混沌とした社会情勢を変える力は人作りしかありません。お寺とは人生の学校のような所なのだと思います。人を受け入れることは大変な作業ですが、人作りの一助になればと思い、粘り強く続けていきたいと願っています。それは確かに仏様の願いなのだと信じています。

合掌

開創四百五十年記念事業

土木工事終了のお知らせ

平成十七年十月から始まった土木工事も、平成十八年七月をもって終了致しました。

工事中は何かとご迷惑をお掛け致しましたが、事故もなく無事に終了出来たことは、施工を請負われた（有）金子鉄工建設、また、皆様のご協力によるものであり、感謝の気持ちで一杯です。

十一月と二月の二回に渡り大雨洪水警報が発令され、近代まれに見る大量の雨量により土砂が流出しました。その土砂を方丈さんと皆で掃除をし、スコップダコを作ったことや、一月には樹木葬墓苑内の樹木二百本余りを檀家の方々と共に一週間に亘り植えたことなど、多くの経験や体験をさせて頂いた貴重な半年間でした。（地球工作所　山崎）

お寺の前の道路

進入路である「市道川原井大月線」を広げ、専用歩道を設置いたしました。これにより駐車場から参道へ、安心して皆様にご利用いただけるようになりました。

新しい出入口です。

外側線を設けたことにより車道範囲が明確になり、安全性が高められました。

旧来の入口を見直し、県道側に移しました。（写真上段の電信柱右側に移動）

参拝路の拡幅工事

市道から新伽藍までの参拝路を、車2台が楽にすれ違える幅に拡げ、舗装を施しました。以前は未舗装の上、勾配が急なのでなかなか危険な道でしたが、今回の工事を経て、たいへん通行しやすい道になりました。他にも森林の改変を最小にするため、ブロック積擁壁を山側に設置。急勾配なため工事に時間がかかりましたが、立派な参道が出来上がりました。

大きく回り込み、かつ急勾配であったため、最も施工が難しかった箇所。

通路幅を5.5mに統一したことにより、車2台が楽にすれ違えます。

四百五十年記念事業に相応しい、立派な参道が出来上がりました。

樹木葬墓地の造成

伽藍南側の丘陵地の崖・急斜面をなだらかにし、メイン通路を透水舗素材で、参道を木チップで舗装しました。墓地の通路を上がると新伽藍だけではなく、晴れた日には富士山を望むこともできます。また、樹木葬予定地に二百本以上の桜や梅、ヤマボウシなどを先行的に植えました。

未来に継承される里山づくりの大切な「はじめの一歩」を、確かに踏み出せたようです。

2006年6月

檀家の方々と共に植えた樹木も葉が生い茂り、伸び伸びと育っています。

2006年1月

植えたばかりの植栽。
なんだかたよりない感じです。

2006年6月

木チップは、将来的にはお寺の敷地内から取れる間伐材を利用する予定です。

2006年1月

先行的な植栽を檀家の皆さまと行いました。

2003年のころの様子。

樹木葬墓地全景（2006年4月撮影）

自然地形を活かした造成

伽藍建設用地の造成は、自然地形を活かし、改変を最小限に止めて行っています。

樹木葬墓苑から新伽藍建設用地を望む。

仏殿建設予定地の文化財調査の様子。

五月から七月にかけて、伽藍建設用地の埋蔵文化財調査が行なわれ、平安時代の土器が多数見つかりました。土器の中には、重なった状態で発見されたものがあり、一説によると呪術に使用されていた可能性があるとのこと。

土器と角が丸くなった石が複数出土しました。

残土を利用した調整池

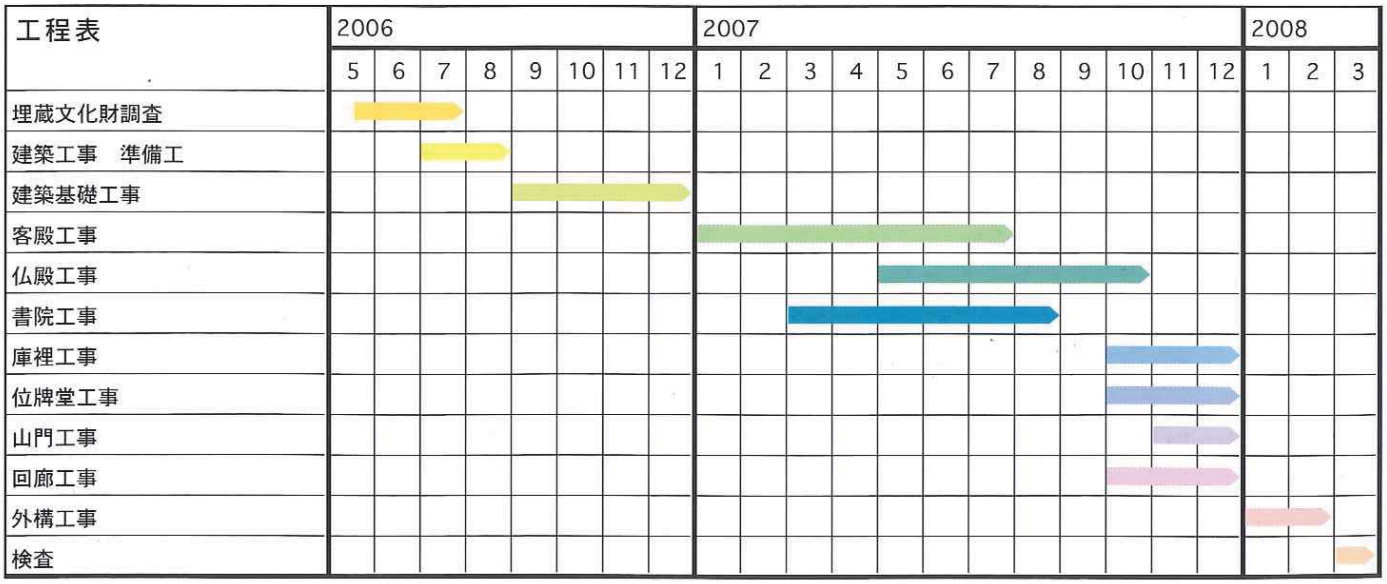
敷地内の雨量を調整するために、千余立方メートルもの堀込み式の池を造りました。池の周りは他の造成工事で出た残土で造り、芝生を吹きつけました。

このように真光寺の敷地内で出た残土や間伐材は、なるべく真光寺の敷地内で活かしていければと考えています。

調整池周辺用地を望む。

土木工事から建築工事へ

土木工事が無事に終わり、八月末からは建築工事が始まります。建築工事では、新伽藍（客殿、仏殿、書院、庫裡、位牌堂、山門）の建設を行ないます。施工業者は、（株）しゃじ という社寺関係の建築工事を主に行なっている秋田県の業者です。この新伽藍建設のために秋田から来ていただくことになりました。建築工事は、以下に示す工程で執り行なわれる予定です。工期は、平成十八年八月末から平成二十年三月までを予定しております。足場不如意が続いておりますが、ご理解ご協力をお願い致します。

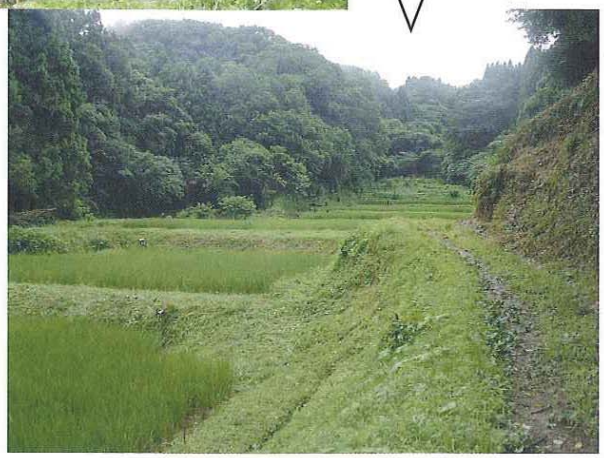


里山再生活動

三年目のお米づくり

真光寺のお米づくりも三年目に突入しました。冬の間の開墾作業で新たに四枚の田んぼを開墾し、平成十八年は八枚の田んぼに田植えをすることになりました。総面積は約四反（千二百坪）、耕作面積の拡大によって、いよいよ機械化が必要になったため、春には中古の耕耘機とトラクターを真光寺で購入しました。だんだん趣味の域を脱し、本格的な営農へと進んでいます。（どうなる！）

1年目　2004年5月
一番下の田んぼも木が生えて、向こうが見えなかった。



3年目　2006年7月
今では6枚まで開けています。

私たちの田んぼづくりは、地元の農家の方々から余った苗をいただいて行っています。大体一反あたり苗箱二十枚程度が必要になります。今年は田んぼの枚数が増えたので、昨年よりも多くの苗が必要になったのですが、冬から春にかけて続いた天候不順のせいで苗づくりに失敗する方も多く、営農家のみなさんも苗を融通しあっていたりして集めるのが大変でした。こういった状況を考えると、来年からは自分達で苗づくりから始めないといけないのかもしれません。

左側の写真は一年目からの田んぼの変化を並べてみたものです。

1年目　2004年5月
学生達に手伝ってもらった放棄田。

3年目　2006年7月
今では床がしかりできた、立派な田んぼになりました。

休耕田だった棚田を一枚一枚開墾し、大分奥まで苗を植えられるようになったのが見てとれるかと思います。春夏秋冬の季節ごとの谷津の美しさを時おり手を止めて眺め、小鳥のさえずりに囲まれた環境で一心に農作業をしていると、心が洗われるような感じがします。

クロヌリ　四月二十九・三十日

三月のやながりに続いて、この月はクロヌリを行いました。クロヌリとは畔の壁面を斜めに削り、田の泥を掬い取ってクワなどで塗り付けていく作業のことです。ザリガニやモグラなどが開けた穴を泥で塞ぎ、田んぼの水漏れを防ぐために田植え前の春に行ないます。最近では機械できれいに作れるそうですが、私たちの田んぼはまだまだ道が整備されていないこともあって機械を入れることができず、すべて手作業で行っています。

機械で済ますことが労力がかかっていないとは言いませんが、手作業で田んぼをつくると、お米をつくるということはどれ程大変なことかが、自分の手から実感として伝わってきます。

クロヌリまではなんとか終了したので、あとは代掻きを終わらせられれば田植えの準備は完了。来月はいよいよ田植えです！

2006年4月
5段目の田んぼから、ハス池を望む。

田植え　五月二十七・二十八日

田植えのイベントの二日目は住職から「川原井の里山再生に至るいきさつと田んぼ作りについて」お話いただき、その後、小雨のなか川原井の里山をエコトレッキングしました。その際に、私たちが目指す谷戸の姿、美しい上（かみ）のおじさんの田んぼにもお邪魔させてもらいました。

古来、山の傾斜がきつい日本において、人が手をいれ適度に開かれた場所は、他の生き物にとっても住みやすい環境を生みだしてきました。その代表的な場所が里山です。人と他の生き物が相対することなく、共生している。川原井の里山再生活動を通して、そういう先人の知恵、ふるまいなど、いろんなことを学んでいます。

前日からの参加者（含むスタッフ）十名に、その十七名が加わり、二日目は大変にぎやかな田植えイベントになりました。

曇り空もいつの間にか素晴らしく晴れ、気持ちのいい風が吹く中、みんなで田植えを行いました。来月は草刈り＆ホタルの夕べです。

一番草取り　六月二十四・二十五日

田植えから約一ヶ月経ち、すくすく成長している稲と一緒に、他の草もすくすくと田んぼの中で育っていました。稲以外の草を抜くのは、おいしいお米のために必要な作業です。なるべく薬を使いたくないので、人力で草を抜いていきます。草取りは通常六月下旬から七月下旬まで、一番、二番と二回行われます。今回のイベントは、一番草取りをメインに行いました。

雑草は水の浅いところにはあまり生えていません。私たちの田んぼはシロカキしたときに浅いところ、深いところが残ってしまい、その形のとおりに雑草が繁殖していました。

「ヒエ」は稲に姿はよく似ていますが、根元が赤いのでその違いを頼りに抜いていきます。その他にもサツマイモに姿の似た「コナギ」という雑草がたくさん生えていました。三時過ぎに差し入れにいただいたスイカで休憩。作業で疲れた身体には、冷たいスイカの甘みが大変おいしく感じました。

夕食をすませたあと、みんなでホタル（ヘイケボタル）を見に行くというとても贅沢な内容になりました。露天風呂は参加者にも手伝っていただき、境内の裏手にビニールシートで作ったものです。大人にも子どもにも大変好評なので、今後も続けていきたいと思っています。

七月末に二番草取りを行い、あとは秋の刈り入れを待つばかりになります。今年はどんなお米がとれるでしょうか。秋が楽しみです。

学生につくってもらったペットボトルのモグラよけ。プロペラのまわる音が効果的なのだとか。

お寺らしく、
朝のおつとめもあります。

上総自然学校

今年から森環境教育事務所の森美文先生のご指導の下、上総自然学校を開催することとなりました。上総自然学校は、子供たちにお寺での生活と自然の中での体験を通して、健全な脳と精神を育んでもらおうという思いから、市原の宝積寺、富津の見性寺、そして真光寺が一丸となって進めている企画です。五月二十日（土）、二十一日（日）に第一回の活動が真光寺にて行なわれました。第一回は農業体験ということで、田植えを体験してもらいました。子供たちを集めるのに苦労をして、小学校五年生の男の子五人と小学校四年生の女の子四人の九名の参加でしたが、元気いっぱい泥だらけになって一生懸命田植えをしてくれました。

＊

一日目は、初めに自己紹介をしてお互いの名前を覚え、その後、初対面の気恥ずかしさを解消するためにゲームを行ないました。ゲームを始めた当初は、子供たち同士、なかなか話をすることも名前を呼ぶことも出来ず、モジモジしていましたが、ゲームが盛り上がるにつれて子供たちに笑顔が増え、はしゃぎあうようになりました。ゲームですっかり打ち解けた後は、田んぼへと散歩へ出かけました。

夕飯には、精進料理を全員でいただきました。夕飯の後は、天体望遠鏡で木星と土星を観察することになっていましたが、この日は生憎の曇り空。晴れ間が出来ることを願って子供たちは、「晴れろ！晴れろ！」の大合唱。願いが通じたのか、晴れ間が多くなり、なんとか全員、惑星を観察することができました。手作りの露天風呂に大はしゃぎした後は、さすがに疲れたようでぐっすりと眠りにつきました。

二日目は、朝の座禅を体験した後、田植えを行ないました。初めは、おっかなびっくりしながら田んぼに入っていた子供たちでしたが、次第に泥の感触に慣れてきて、ついには裸足になり、そのうちに全身泥だらけになってしまいました。田植えを体験した後は、田んぼの生き物探し、ザリガニ釣りを楽しみました。初めはなかなか上手に釣れませんでしたが、子供たちはすぐにコツを覚えて次々にザリガニを釣っていました。自分のお気に入りのザリガニをペットボトルに入れて持って帰る子もいました。

実質、一日という短い時間でしたが、始まった当初と終わった後では確実に子供たちの表情が変わっていました。自然の中で様々な体験をし、考え、感じたことは確実に子供たちの脳の育成に繋がっています。「心から面白い、楽しい」と感じていることが表情となって現れていることこそ何よりの証です。そして、そんな子供たちを暖かく見守る大人がいるということが子供たちへの安心へと繋がり、伸び伸びと育っていくことと思います。次回からは、市原、富津へと場所を移します。真光寺には、九月に稲刈りを体験に来ます。この五ヶ月で子供たちの表情がどのように変わるのか楽しみです。

法話
お母さん、ぼく死ぬんだよね

N男君、享年九、小さな生命が旅立っていきました。新盆のご法事を終えたあと、N男君のお母さんがご住職に語っています。「あんなに元気だった子が、小児ガンだと告げられたとき、信じられなくてお医者さまに激しく問いつめてしまいました。『冗談をいわないでください。この二、三年風邪一つひいたことがないのです。少年野球のチームでも練習を休んだことはありません。ものすごく元気です。失礼ですが、先生の誤診にちがいありません。もう一度、検査をしてください』と。

再検査の結果、たしかにN男の小さな身体にガンが住んでいました。病院のベットだけが、N男の生きる場所になってしまいました。

ある日、N男がこんなことをいいました。『おかあさん、ぼく死ぬんだよね。お願いがあるんだ。ぼくが死にそうになったら、ぼくの手を握りしめていてね。ずーっとだよ。ぼくの息が止まって、お医者さまがぼくの死んだことをお母さんに知らせてくれるまで、ぼくの手を握っていてね。お願いだよ、お母さん！』私は返事に困りました。涙をこらえるのが精いっぱいです。N男が続けていいました。『死ぬって苦しいのかなあ。お母さん、ぼくね、もし苦しかったら、ヨイショ、ヨイショって声を出して頑張ろうと思うんだ。お母さんも一緒に、ヨイショ、ヨイショっていってくれる？』やっぱり答えられません。私、廊下に飛び出して泣きました。」

ご住職が涙をふきながらお母さんに語ります。「N男君は死を見つめて、死ぬとき取り乱さないように心の準備をしていたんですね。大人でもできないのに…」

お母さんが続けます。「とうとうその日が来ました。またN男が問いかけてきたんです。『お母さん、ぼく一人で死ぬのかなあ。毎日おばあちゃんがお仏壇におまいりしているから、仏さまが一緒かもしれないね。』私、思わず答えました。そうよ、一人じゃないわよ。きっとたくさんの仏さまがお迎えに来てくださって、N男の手を引いてくださるに決まっているわよ。『そうだよね、ぼく、仏さまとなら安心だよ…。お母さん、手を握ってて…。』それから数時間後、N男の息使いが荒くなりました。口が動いているので耳を近づけてみると、ヨイショ、ヨイショといっているではありませんか。私もN男の手を握りしめて、耳もとで、ヨイショ、ヨイショって。かけつけた主人やおばあちゃんたちも、みんなで声を合わせてヨイショ、ヨイショの大合唱。やがてN男の息は止まりました…。N男は仏さまと一緒に旅立ったんですよね。」「その通りです。仏さまのみ胸にいだかれて旅立ったのです。ご安心下さい。」

（ぶっきょうスクール（ぱんたか発行）に掲載されたものを許可を得て転載しました。）

このお話しは実際にあったはなしだそうです。みんなヨイショ、ヨイショと頑張りながら生きています。そして頑張りながら死んでいきます。明日の知れない命ではないですか。あの世までもみんなで助け合って仲良く楽しく生きましょう。

合　掌

真光寺HP：http://homepage2.nifty.com/sinko-ji/
ブログ「瓦谷山たより」：http://sinkoji.cocolog-nifty.com/